

常願寺（茅ヶ崎市萩園）の古墓石等調査記録

◎平野 文明

調査の概要

一 経緯

平成二十五年三月五日、日蓮宗常願寺（茅ヶ崎市萩園一四四一）の檀家総代宮川元二さんから、境内整備の一環で古墓石などを記録しているが手伝って貰えないかとの依頼があった。

翌六日に訪問したところ、境内に置かれてあった古墓石や小型の仏塔（五輪塔、宝塔、宝篋印塔など）の部位が一ヶ所に集められていた。森田海玄住職、宮川元二総代、和田治彦総代がおられて、和田さんがすでに記録化に着手されているとのことであった。資料館と活動する会民俗行事部会に諮って返事をすることにした。

三月七日の文化資料館での民俗行事部会例会において文化資料館を交えて検討し、依頼を受けることとした。

二 調査

三月十二日（火）に伺ったところ、古墓石などは、和田さんの手によって、置かれた順に番号がつけられ、さらに配置図などができていた。調査はこの配置図などを使って進めた。

調査は十二日と翌十三日に行った。古墓石と石灯籠基礎は文化資料館の石仏調査カードを使い、一基ごとに銘を記録し、スケッチ、採寸して写真撮影した。小型の仏塔などは数を確認し、大ききごとに大まかに計測し、まとめて写真撮影した。文字や種子がある部位は近接撮影を行った。また、大ききなどを手がかりに種類ごとに仮に組んでみた。

五月十四日（火）、側面の写真撮影と再度奥行きを計測した。

六月十一日（火）、墓石の石の種類を調べた。

三 調査対象

① 小型の仏塔など

各部位はすべて散在しており、建立時の姿を止めるものはなかった。

・五輪塔（地輪二十九基、水輪十四基、火輪二十基、空風輪七基）内、文字のある地輪一基、五大種子「バ」の四転のある水輪一基があった。

・宝塔基礎（六基、塔身一基、笠四基）

・相輪二（ともに破損）

・宝篋印塔（基礎二基、笠一基）

・反花座一基

仏塔のこれらの部位を用い、三月十九日に宝塔一基、宝篋印塔一基、五輪塔六基（空風輪が数が少なく七基だったので、そのうちの比較的大型の一基を除く六基に合わせたもの）が、本堂の東北隅の一面に、当初の姿を復元するものではないが、組まれて建てられた。

② 江戸時代、昭和期の古墓石八十二基

③ 江戸時代のものと思われる石灯籠の基礎（対）

④ 調査対象からはずしたもの

石灯籠の笠（③とは別物）、用途不明の宝珠、自然石材など。

四 調査参加者

三月十二日 文化資料館と活動する会民俗行事部会（飯岡英仁、小川正恭、金子栄司、坂井源一、宗 建、平野文明）、会員外（樋田豊宏）茅ヶ崎市文化資料館（芦葉抄苗）

森田海玄住職、宮川元二総代、和田治彦総代が立ち会われた。

三月十三日 金子、坂井、宗、平野。常願寺からは森田住職が立ち

会われ、和田さんも調査に加わられた。

五月十四日 小川、平野

六月十一日 小室明彦（会員外）、小川、平野、森田住職、和田総

代

五 その他

写真は坂井源一、平野文明、和田治彦氏撮影のものを使った。報告中の寸法図は平野が作製した。

◎文化資料館と活動する会（民俗行事部会）

平成二十五年十二月

古墓石

凡例

古墓石には刻されている年銘の古い順に番号を付し、一基ずつ、上段に銘、中段に寸法図、下段に写真を掲げた。側面にある銘はその旨を記した。また、一覧を付した。

年銘と事例の配列

建立された年月日を刻した四基(No. 65・66・67・68)のほか、刻してある年銘は没年月日と考えられる。事例の配列は年銘の古い順とした。複数の没年月日のある墓石は建立年に近いと思われる新しい方の年銘によった。

また、没年から時を置いて建立されたものもあると思われるので、年銘の順が、墓石の建てられた順を表すものではないことをことわっておく。

破損などで年銘が読めないものは板碑型、板碑Ⅱ型、櫛型、破損がひどくて元の形がわからないものの順にNo. 69からまとめた。

銘のあらわし方および注記

判読できない文字は、一字は□、字数が分からない場合は「」、不確かな場合は傍線を引いた。欠損などのために年銘が読めなくても干支で補ったものもある(No. 27など)。注記には※を付した。

上段には主に銘に関するもの、中段には状態と横幅に対する奥行き寸法の比を記した。誤刻の場合は上段に記した(No. 29・48・59)。銘文内の個人名には、■をもって伏せ字を施した。

墓石の呼び分け

墓塔・墓碑・墓標と呼び分けた。その違いは次のとおりである。

・墓塔 尊体(今回の事例では「南無妙法蓮華経」(No. 2など)、「妙法」(No. 4など)、「地藏菩薩立像」(No. 31)と故人の戒名や年銘等を刻したもの。

尊体が刻まれていることを以て、仏塔の意味を有していると解して「塔」の一字を配した。

・墓碑 尊体を刻しないもの。故人の記念(No. 35など)や家意識(No. 67)に力点が置かれていると解し「碑」の一字を配した。

・墓標 破損、剥落などのために尊体の確認ができないもの。

墓石の型

形の違いにより次のように分けた。

◇板碑型 前面を精緻に、背面は荒く整形する。頂部前面にむくりをつけ、頂部は三角形に仕上げる。前面は彫り窪め尊体・戒名・年銘を刻む。前面の、彫り窪めた上部はせり出させ中央に半円をつくる。脚部に蓮葉や蓮華を彫刻するものもある(No. 7など)。

◇板碑Ⅱ型 前面の彫り窪めを簡略化する。頂部の半円は消失し(No. 4)、あるいは間延びする(No. 11)。

◇櫛型 柱状に四面を仕上げる。正面から見た頂部は中央部を高く、左右肩を低くつくる。横幅より奥行きの値が小さく(比、○・八を基準とした)、全体は櫛の形を呈する(No. 25など)。頂部の形によって次を細分した。

・櫛傾斜型 頂部の後方を低くして傾斜をつける(No. 45など)。

◇板柱型 頂部を除く全体の形は櫛型に同じ。頂部の形によって次のように細分した。

・板柱平頭型 頂部を水平に仕上げる(No. 57)。

・板柱隆起型 頂部を隆起させる(No. 64)。

◇角柱型 柱状で横幅に対する奥行きの比が○・八以上あるもの。頂部の形により次のように細分した。

・角柱面取型 頂部の左右二辺を面取する(No. 55など)。

・角柱四辺面取型 頂部の四辺とも面取する(No. 68)。

・角柱隆起型 頂部中央を丸く隆起させる(No. 60など)。

・角柱錐型 頂部を四角錐に仕上げる(No. 48)。

◇像舟形型 全体を船体の格好につくり、背面は荒く、前面は精緻に整形し地藏菩薩の像を浮き彫りにする(No. 31)。

◇自然石型 根府川石をほぼ原籍のまま使う(No. 58)。

◇型不明 破損のために元の形を類推できないもの(No. 69・81・82)。

直方体の形状を呈するものを、櫛型と板柱型と角柱型に分けた。櫛型・板柱型と角柱型の違いは、板状であるか柱状であるかの違いで、便宜上横幅に対する奥行きの比、○・八を区分の基準とし、それ以下のものを櫛型・板柱型(板状)、以上のものを角柱型(柱状)とした。

墓石の型 他の報告書などとの対応

凡例の「墓石の型」で述べた「型」については統一された見解というものがない。そこで、たまたま目にした文献で取り上げられている型と常願寺で用いた型を対応させてみた。対応関係が不確かな場合は「？」を付した。

文献 ① 『日本石仏事典』 (模式図が添えられている)		常願寺
板碑型	正面を平ら、背面を船底形荒仕上げ、上部に額部を作りだし、中央彫りくぼめ、下部に前出を置く。	板碑型
笠付型	塔身の上に笠を置く。笠から普通笠と唐破風付に区分、塔身から角柱・円柱・その他に分類。	事例なし
光背型	如来の光背をかたどり、背面は船底形。板碑型に続く形式。	像舟形
板碑型蓮碑		事例なし
角柱 (1)		角柱平頭型
唐破風付		事例なし
笠付丸柱		事例なし
箱型		楡型
丸柱		事例なし
駒型	将棋の駒の形。板駒型との違いは背面、両側面平らに加工。	事例なし
山状角柱		角柱錐型
舟形如意輪		(像舟形型)
角柱 (2)		角柱隆起型
自然石 (1) (そげ石)	自然の石をそのまま利用。	自然石型
自然石 (2)		事例なし
柱状型	角柱・扁平柱・円柱を含む。頭部で平角・皿角・山角・丸角型などに分類。	-----
板駒型	板碑型と光背型の折衷、光背型の上部を駒の形に、背面は船底形の荒仕上げ。	板碑Ⅱ型か？
丸彫り型	立体的に仏像を刻む。	事例なし
雑型	以上の型にあてはまらないもの。	事例なし

文献 ② 『石仏と石塔』 (模式図が添えられている)		常願寺
板碑型蓮碑		事例なし
特殊板碑型		事例なし
板碑型		板碑型
特殊円頭箱型		事例なし
箱型		楡傾斜型
舟型		像舟形型
無縫塔		事例なし
円頭角柱型		(角柱四辺面取型)
笠付角柱型		事例なし

文献 ③ 『国立歴史民俗博物館研究報告』112 (模式図が添えられている)		常願寺
1 板碑型		板碑型
2 双体板碑型		事例なし
3 舟形		板碑Ⅱ型
4 有像舟形		像舟形型
5 台状頭角柱		角柱隆起型
6 楡型		楡型
7 笠付塔婆		事例なし
8 五輪塔		事例なし

文献① 『日本石仏事典』 2版 321～325頁 (雄山閣出版 1995年刊)

文献② 『石仏と石塔』 87頁 (山川出版社2001年刊) 『環八光明寺地区遺跡調査報告書』を引用

文献③ 朽木量 「墓標からみた近世の寺院墓地 神奈川県平塚市大神真芳寺墓地の事例から」
(『国立歴史民俗博物館研究報告』112 458頁 同博物館2004年刊)

五輪塔

境内の各所にあつた五輪塔の部位を集めた様子。



合いそうな部位を合わせて仮に組んだ様子。手前の二基は宝篋印塔の部位と反花座。



五輪塔で確認できたものは次のとおりだった。

地輪 二九
大きいもので幅×奥行×高さは二四×二四×一七cm、小さいもので一八×一八×一三cm。

水輪 一四
最大の径が、大きいもので二四・五cm、小さいもので十七cm。

火輪 二〇
大きいもので三〇×三〇×高さ二〇cm程、小さいもので一八×一八×一二cm。

空風輪 七
ほとんどのものが径×高さは一〇～一二・三cm×二〇cm足らず。



これらの中に比較的大型の水輪と空風輪が二基ずつあった。最大径二七×高さ一九cm
空風輪 径一四×高さ三〇cm

文字のある五輪塔地輪

二九ある地輪の中に文字のあるものが一あった

幅×奥行×高さは二〇・五×二一×一六cm



銘

比丘尼妙修

経 □

「 四年

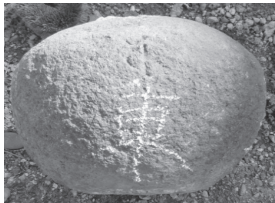
「 月 □ 日

五大種子「バ」のある水輪

一四ある水輪の中に、五輪塔五大種子の一つ「バ」の四転があるものが一あった。しかし上記の地輪と揃うものではない。

最大径×高さは二五×一八cm

東方発心門



バ

南方修行門



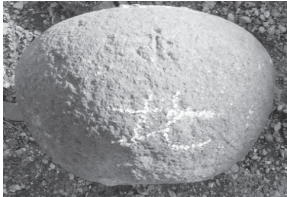
バ

西方菩提門



パン

北方涅槃門



バク

宝塔



基礎 六
幅×奥行×高さは小さいもので二一×二一×二二cm、大きいもので二二×二二×一七cm

塔身 一
径×高さは二〇×一六cm

笠 四
大きいもので三〇×三〇×高さ一八cm、小さいもので二三×二三×一四cm

塔身が乗っている基礎に「宝徳四年」(8頁参照)の年銘がある。座、基礎、塔身、笠と積んであるが、写真は仮積みの様子をあらわしており、それぞれ別物である。また、座は宝塔のものとは思えない。

相輪が二あるが、いずれも折れている。宝塔に備わっていたものかどうか不明である。下部欠損のもの高さ一六cm、上部欠損のもの高さ一九cm。

宝徳四年在銘宝塔基礎

六ある宝塔基礎のなかに、銘のあるものがある。

銘

「
三回□菩提也」

宝徳四年 七月
五日

(宝徳四年は西暦一四五二年)

法量

幅×奥行×高さは二四×二四×一九cm



天ヶ瀬恭三「常願寺の宝塔基礎」

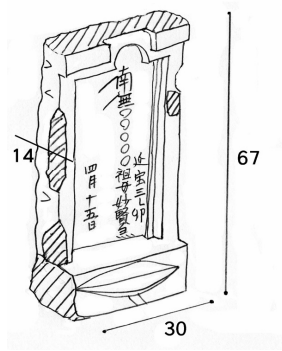
「郷土ちがさき」一六号(昭和五十一年五月茅ヶ崎郷土会発行)所収

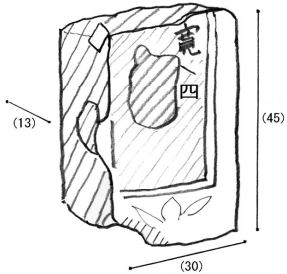
初めてこの宝塔基礎を紹介した天ヶ瀬氏は右記の文献に次のように記している。常願寺の墓園の常願寺の、歴代住職の墓地の一角に、中世の石塔がばらばらの状態で見られる。その塔の高さ一七・五cm、幅二四cmの宝塔の基礎に室町時代の年号があった。(略)基礎の側面は輪郭で二区に分けてあるが、その二区にわたって次のような文字が読めた。

「三回御菩提也」
宝徳四年七月五日

(出典は横組)

また天ヶ瀬氏は、この基礎のそばに宝塔塔身と、基礎五(この基礎を含めて六基)があるが塔身と文字のある基礎は一具ではないと記している。その後、この文字のある基礎は別の塔の部位とモルタルで接着されて歴代住職の墓地の一角に建てられてあった。平成五年三月、無縁墓石が別整石積みではあるが同種の塔の部位で整え再建された。なお、宝塔の笠四基は天ヶ瀬氏は報告していない。当時は歴代墓所になかったものと思われる。

	番号	2	名称
			延宝三年銘板碑型墓塔
			年銘
			延宝三年（一六七五）
			型
			板碑
南無妙法蓮華經祖母妙賢靈 （ひげ題目） 延宝三乙卯 四月十五日 （蓮葉）			
※頂部欠損			
			
			

番号		1	名称
寛文四年銘型不明墓標			年銘
			寛文四年（一六六四）
			型
			板碑Ⅱ
※銘の面ほとんど摩滅と剥落のため「文四」の読みは推定			
※頂部、左側面欠損のため型は推定			
			
			

宝篋印塔と反花座

宝篋印塔

基礎
写真右、幅×奥行×高さは二四×二四×二一cm。同左、二〇×二〇×一七cm。

笠
幅×奥行×高さ、二三×二三×二〇cm

なお塔身の部分にある石は別石で、宝篋印塔の塔身ではない。

反花座 一

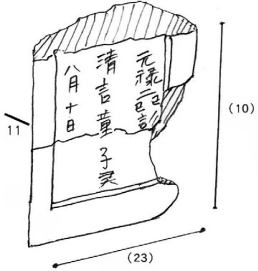
反花座に仮に写真のように宝篋印塔基礎を載せてみたが、元は何の座であつたかは不明。一九×一九×高さ一二cm。

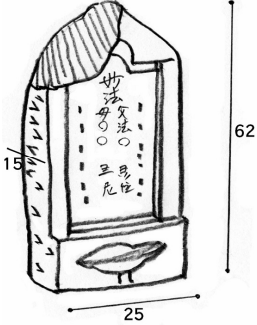


組み直された仏塔（平成二十五年三月十九日）

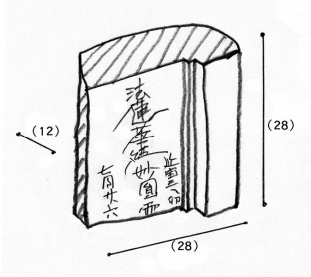
宝徳四年銘の宝塔基礎は最左の塔に、五輪塔四方種子のある水輪は左から三番目の塔に、銘のある地輪は同四番目の塔に設置された。なお工事にあたつた三橋石材店（柳島）の三橋理佳さんなどによると、業界では五輪塔種子の四転は向かつて右側に東方発心門を置くとのことだった。

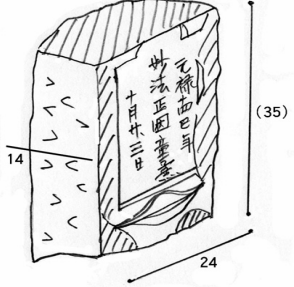


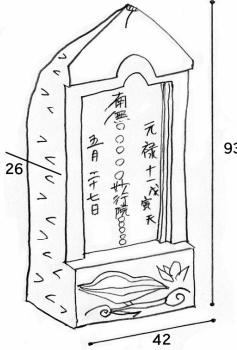
名称	番号	6	名称
元禄二年銘板碑Ⅱ型童子墓標	年銘	元禄二年（一六八九）	型
板碑Ⅱ	型	板碑Ⅱ	型
※頂部および右側面欠損、二つに折れ			
			
			

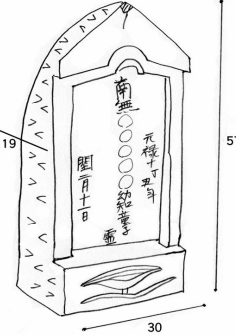
名称	番号	5	名称
延宝・天和銘板碑型連名墓塔	年銘	天和二年（一六八二）	型
板碑	型	板碑	型
※左側頂部欠損			
			
			

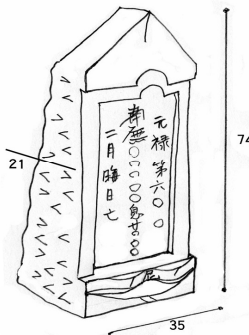
名称	番号	4	名称
延宝八年銘板碑Ⅱ型童子墓塔	年銘	延宝八年（一六八〇）	型
板碑Ⅱ	型	板碑Ⅱ	型
※頂部一部欠損			
			
			

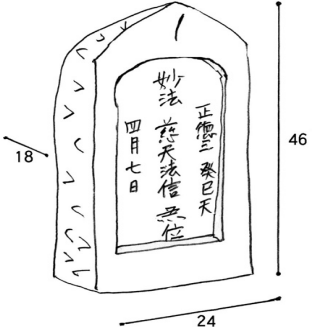
名称	番号	3	名称
延宝三年銘板碑型墓塔	年銘	延宝三年（一六七五）	型
板碑	型	板碑	型
※頂部、脚部および左側面欠損			
			
			

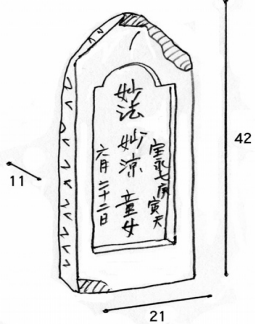
名称	年銘	型	板碑
元禄十四年銘板碑型童子墓塔 番号 10 元禄十四巳年 妙法正因童子靈 十月廿三日 (蓮葉)	元禄十四年(一七〇一)	型	板碑
※頂部、脚部欠損 			
			

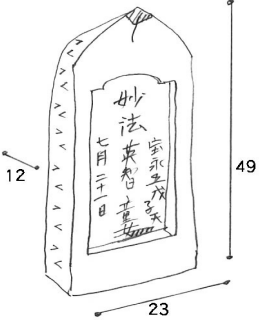
名称	年銘	型	板碑
元禄十一年銘板碑型墓塔 番号 9 元禄十一戊寅天 (南無妙法蓮華經)妙行院達心日開靈 (ひげ題目) 五月二十七日 (蓮葉)	元禄十一年(一六九八)	型	板碑
			
			

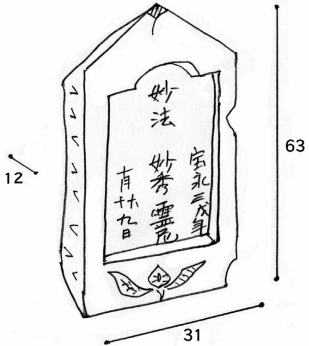
名称	年銘	型	板碑
元禄十年銘板碑型童子墓塔 番号 8 元禄十丁丑年 南無妙法蓮華經幼知童子 (ひげ題目) 閏二月十一日 (蓮葉)	元禄十年(一六九七)	型	板碑
			
			

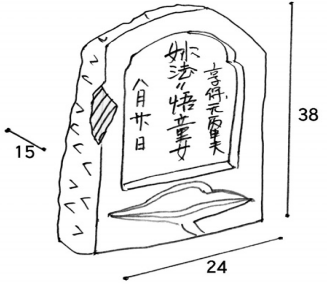
名称	年銘	型	板碑
元禄六年銘板碑型墓塔 番号 7 元禄第六癸酉 南無妙法蓮華經息女妙柳靈 (ひげ題目) 二月晦日亡 (蓮葉)	元禄六年(一六九三)	型	板碑
			
			

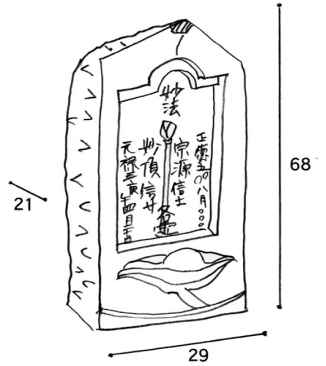
名称	番号	1 4
正徳三年銘板碑Ⅱ型墓塔		
正徳三癸巳天 妙法 慈天法信 靈位 四月七日		
年銘	正徳三年（一七一三）	
型	板碑Ⅱ	
		
		

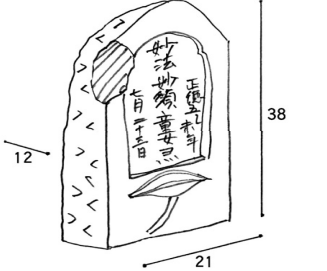
名称	番号	1 3
宝永七年銘板碑Ⅱ型童子墓塔		
宝永七庚寅天 妙法 妙涼 童女 六月二十二日		
年銘	宝永七年（一七〇八）	
型	板碑Ⅱ	
		
		

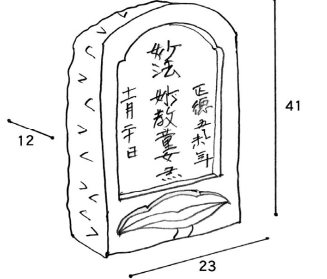
名称	番号	1 2
宝永五年銘板碑Ⅱ型童女墓塔		
宝永五戊子天 妙法 英智 童女 七月二十一日		
年銘	宝永五年（一七〇八）	
型	板碑Ⅱ	
		
		

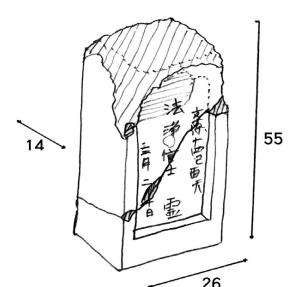
名称	番号	1 1
宝永三年銘板碑Ⅱ型墓塔		
宝永三戌年 妙法 妙秀靈尼 十月廿九日		
年銘	宝永三年（一七〇六）	
型	板碑Ⅱ	
		
		

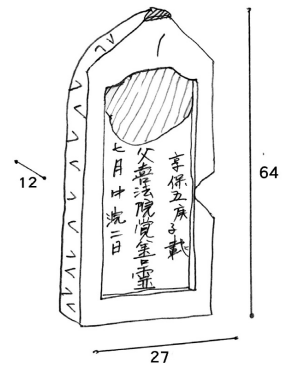
名称	番号	1 8
享保元年銘板碑Ⅱ型童女墓塔		
年銘	享保元年（一七一六）	
型	板碑Ⅱ	
妙法 悟童女 八月廿日 享保元丙申天 (蓮葉) 		
		

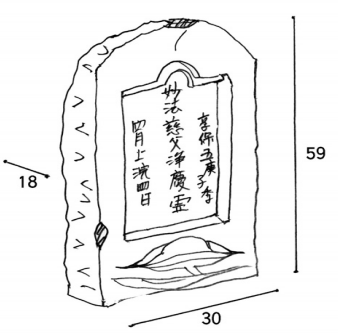
名称	番号	1 7
正徳・元禄銘板碑型連名墓塔		
年銘	正徳五年（一七一五）	
型	板碑	
正徳五乙未八月二十六日 宗源信土 妙法（未開敷蓮華） 各霊 妙頂信女 元禄三庚午四月二十日 ※元禄三年は一六九〇年 (蓮葉) 		
		

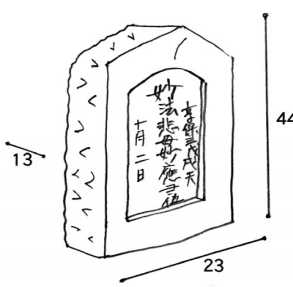
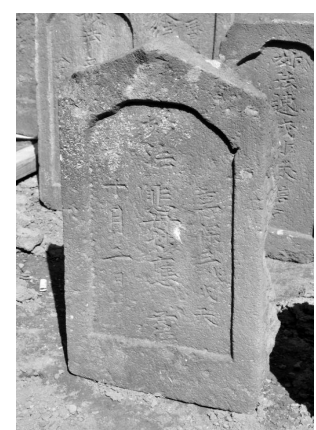
名称	番号	1 6
正徳五年銘板碑Ⅱ型童女墓塔		
年銘	正徳五年（一七一五）	
型	板碑Ⅱ	
正徳五乙未年 妙法妙須童女霊 七月二十三日 (蓮葉) 		
		

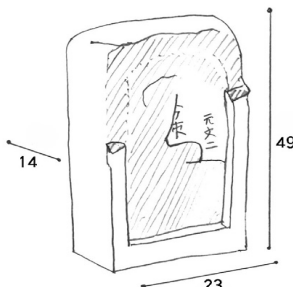
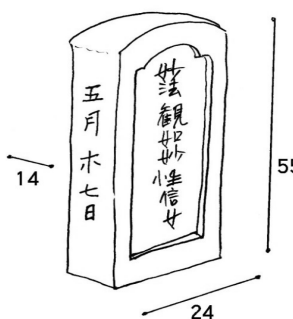
名称	番号	1 5
正徳五年銘板碑Ⅱ型童女墓塔		
年銘	正徳五年（一七一五）	
型	板碑Ⅱ	
正徳五乙未年 妙法妙教童女 霊 十一月二十二日 (蓮葉) 		
		

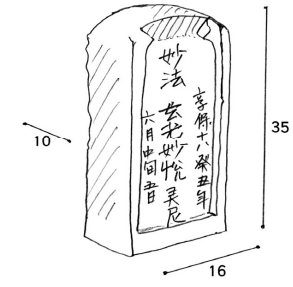
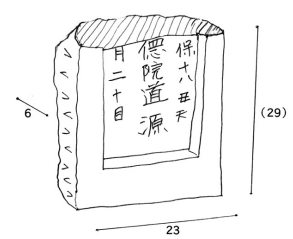
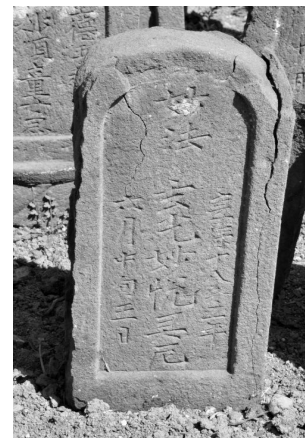
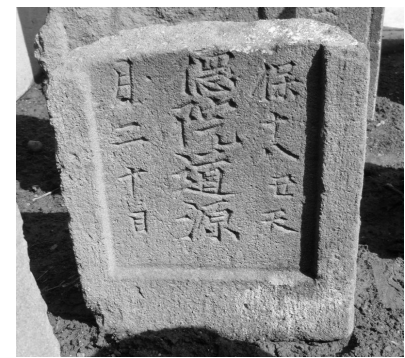
名称	番号	2 2
享保十四年銘櫛型信士墓塔		
享保十四己酉天 浄□信士 霊 三月二十日		
※頂部と銘の面の上部剥落、二つに折れ ※幅に対する奥行の比率 ○・五四		
		
所在地 萩園一四四一 常願寺		
		

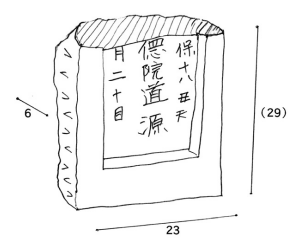
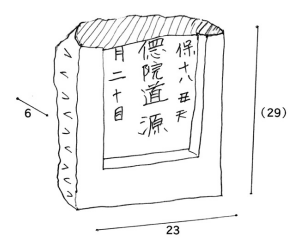
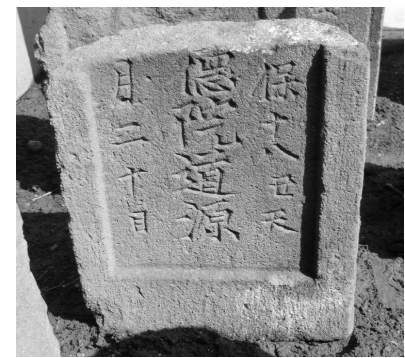
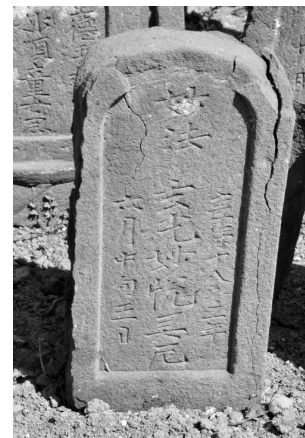
名称	番号	2 1
享保五年銘板碑Ⅱ型墓標		
享保五庚子載 「父喜法院覚善霊 七月中浣二日		
※銘の面、上部剥落		
		
所在地 萩園一四四一 常願寺		
		

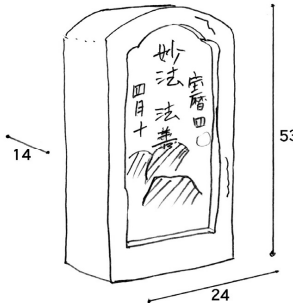
名称	番号	2 0
享保五年銘板碑型墓塔		
享保五庚子季 妙法 慈父浄慶霊 四月上浣四日 (蓮葉)		
		
所在地 萩園一四四一 常願寺		
		

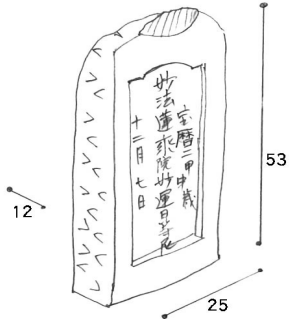
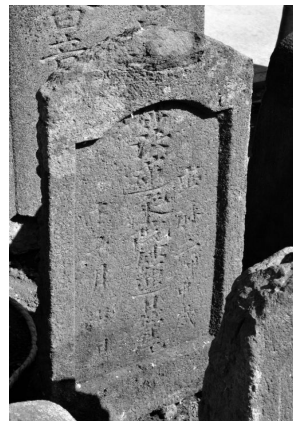
名称	番号	1 9
享保三年銘板碑Ⅱ型墓塔		
享保三戊戌天 妙法 悲母妙應 霊位 十月二日		
		
所在地 萩園一四四一 常願寺		
		

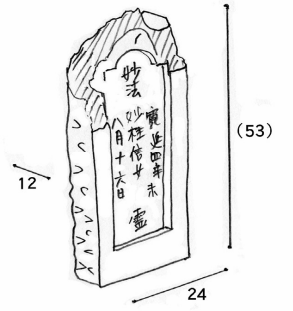
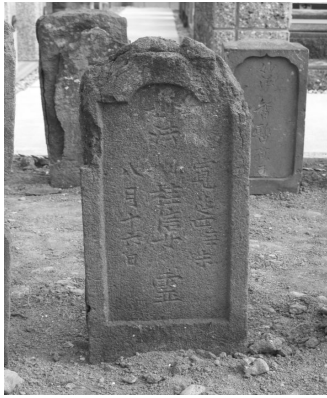
名称	番号	2 6	名称	番号	2 5
元文二年銘楠型墓標			享保十九年銘楠型信女墓塔		
元文二年 〔 〔妙 〔			(右側面) 享保十九年寅天 (正面) 妙法觀如妙性信女 (左側面) 五月廿七日		
※上部全面および銘の面ほとんど剥落 ※幅に対する奥行の比率 ○・六一			※幅に対する奥行の比率 ○・五八		
					

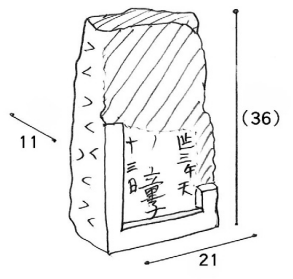
名称	番号	2 4	名称	番号	2 3
享保十八年銘楠型墓塔			享保十八年銘板碑Ⅱ型墓標		
享保十八癸丑年 妙法 玄光妙悅 靈尼 六月中旬五日			□保十八丑天 〔 德院道源 〔 〔月二十日 ※「□保十八丑天」は享保十八年		
※頂部、左側面剥落 ※幅に対する奥行の比率 ○・六三			※頂部欠損		
					

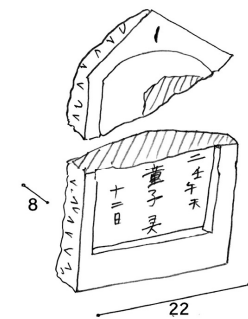
名称	番号	2 3	名称	番号	2 2
享保十八年銘板碑Ⅱ型墓標			享保十八年銘板碑Ⅱ型墓標		
□保十八丑天 〔 德院道源 〔 〔月二十日 ※「□保十八丑天」は享保十八年			□保十八丑天 〔 德院道源 〔 〔月二十日 ※「□保十八丑天」は享保十八年		
※頂部欠損			※頂部欠損		
					

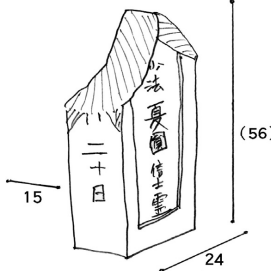
名称	番号	30
宝暦四年銘櫛型墓塔		
年銘	宝暦四年(一七五四)	
型	櫛	
宝暦四年「」 妙法 法善「」 四月十「」		
※銘の面、下部剥落 ※幅に対する奥行の比率 〇・五八		
		
		

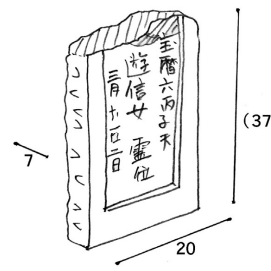
名称	番号	29
宝暦二年銘板碑Ⅱ型墓塔		
年銘	宝暦二年(一七五二)	
型	板碑Ⅱ	
宝暦二年甲申歲 妙法蓮乘院妙蓮日等尼 十二月七日		
※宝暦二年の干支は壬申なので「甲申」は誤刻		
		
		

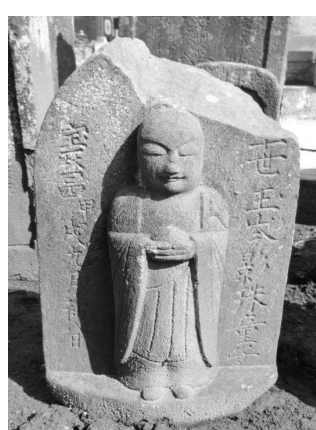
名称	番号	28
寛延四年銘板碑Ⅱ型墓塔		
年銘	寛延四年(一七五一)	
型	板碑Ⅱ	
寛延四辛未 妙法 姁桂信女 靈 八月十六日		
※頂部欠損		
		
		

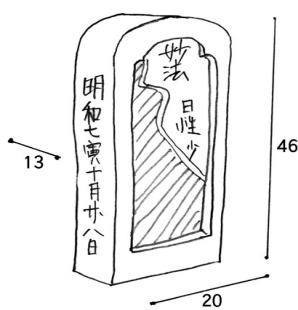
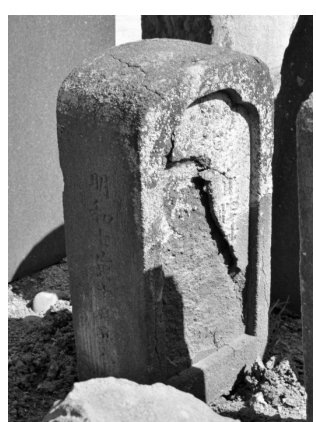
名称	番号	27
寛延三年銘板碑Ⅱ型童子墓標		
年銘	寛延三年(一七五〇)	
型	板碑Ⅱ	
□延三年天 「」 童子 「」十三日 ※「□延三年」は寛延三年		
※頂部、銘の面上部剥落		
		
		

名称	宝曆十二年銘板碑Ⅱ型童子墓標	年銘	宝曆十二年（一七六二）	型	板碑Ⅱ
番号	3 4				
※「」 「二壬午天」は宝曆十二年					
「」 童子 靈					
「」 「二壬午天」					
「」 「十二日」					
※二つに折れ、中程が欠損					
					
					

名称	宝曆六年銘櫛型信士墓塔	年銘	宝曆六年（一七五六）	型	櫛
番号	3 3				
（右側面） 寶曆六丙子季					
（正面） 妙法 夏圓 信士 靈					
（左側面） 「」月二十日					
※頂部左側面欠損					
※幅に対する奥行の比率 ○・六三					
					
					

名称	宝曆六年銘板碑Ⅱ型墓標	年銘	宝曆六年（一七五六）	型	板碑Ⅱ
番号	3 2				
宝曆六丙子天					
「」 邇信女 靈位					
三月 「」日					
※頂部欠損					
					
					

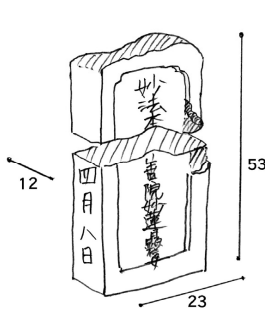
名称	宝曆四年銘地藏舟形童子墓塔	年銘	宝曆四年（一七五四）	型	像舟形
番号	3 1				
「」 世玉岑影珠童子					
（地藏菩薩立像）					
宝曆四甲戌九月初八日					
※頂部欠損					
					
					

名称	明和七・八年銘櫛型連名墓塔	年銘	明和八年（一七七二）	型	櫛
3 8					
(右側面)		明和八卯正月廿八日			
(正面)		妙法 日性妙			
(左側面)		明和七寅十月廿八日			
※明和七年は一七七〇年					
※銘の面、ほとんど剥落 ※幅に対する奥行の比率 ○・六五 					
					

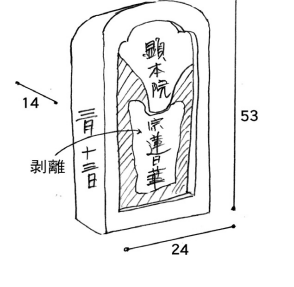
名称	番号	3 7
明和七年銘櫛型信女墓塔		
年 銘	明和七年（一七七〇）	
型	櫛	

（右側面） 明和七庚寅	（正面） 妙法本善院妙蓮日顯信女	（左側面） 四月八日
----------------	---------------------	---------------

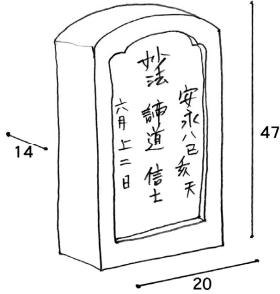
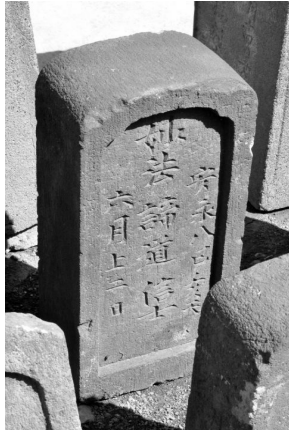
※幅に対する奥行の比率 ○・五二	※二つに折れ、頂部剥落
---------------------	-------------

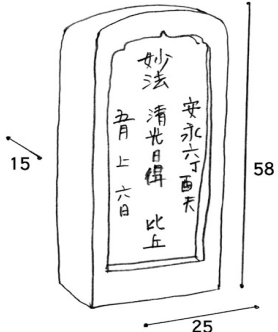

--



名称	番号	3 6	名称	番号	3 5
明和七年銘櫛型墓碑			明和七年(一七七〇)		
(右側面) 明和七庚寅	(正面) 顯本院宗蓮日華「 三月十三日 」	(左側面) 三月十三日	※銘の面、下部はほとんど剥落 ※幅に対する奥行の比率 ○・五八		

名称	番号	3 5
明和元年銘櫛型墓碑		
(右側面) 明和元甲申	(正面) 實相受勝妙歆 靈	(左側面) 十二月十六日 大柳氏

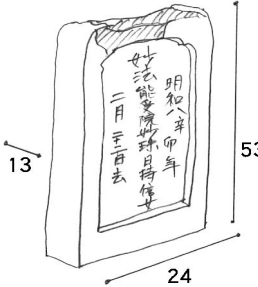
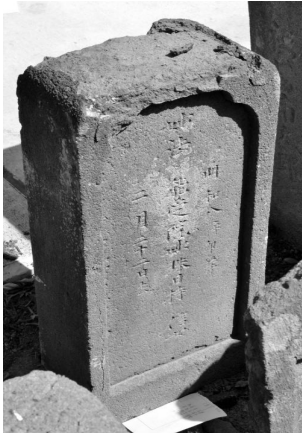
		番号	4 2	名称
				安永八年銘櫛型信士墓塔
				年銘
				安永八年（一七七九）
				型
				櫛
安永八己亥天 妙法 諦道 信士 六月上二日				
※幅に対する奥行の比率 〇・七〇				
				
				

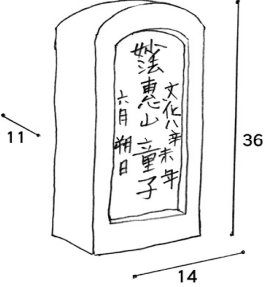
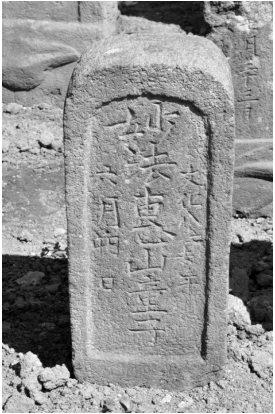
	番号	4 1	名称
			安永六年銘櫛型比丘墓塔
			年銘
			安永六年（一七七七）
			型
			櫛傾斜
安永六丁酉天 妙法 清光日得 比丘 五月上六日			
※幅に対する奥行の比率 〇・六〇			
			
			

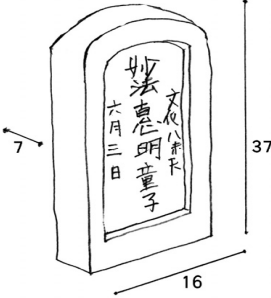
名称	安永四年銘板碑Ⅱ型墓塔
年銘	安永四年（一七七五）
型	板碑Ⅱ
番号	4 0

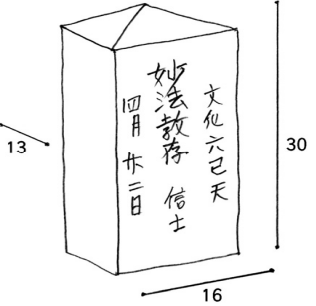
安永四年己未九月廿五日	□	南無妙法蓮華經悲母妙靈	位	施主一□宮村旦入□
※己未の「己」は推定だが「四年己未」と読み、安永四年とした。				

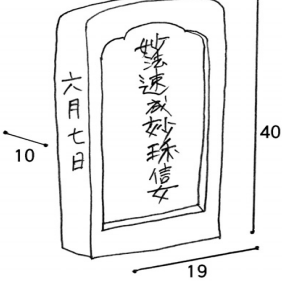
※下部欠損	※銘の彫りが浅い
-------	----------

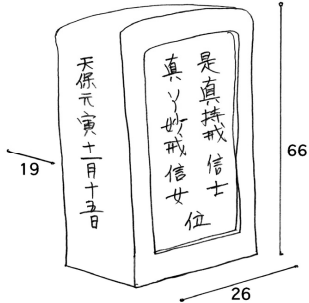
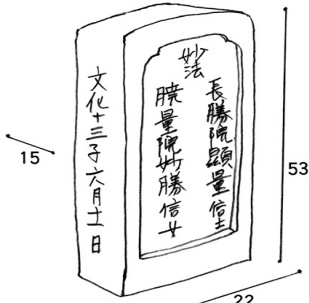
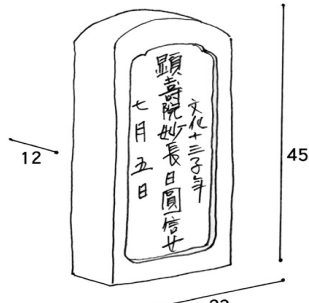
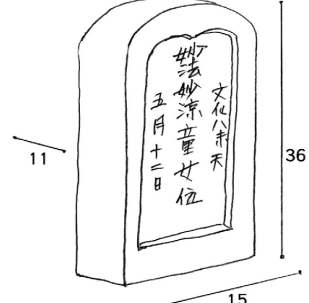
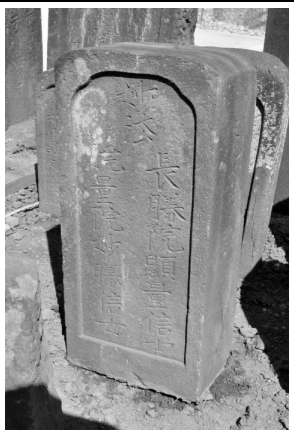
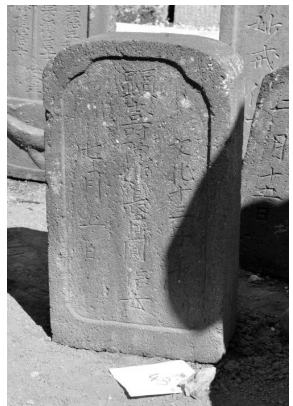
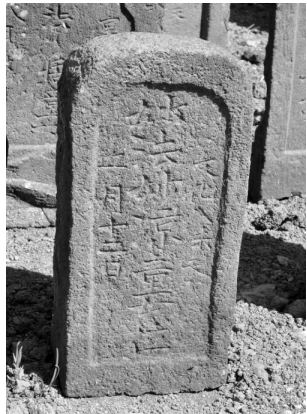
番号		3 9	名称
			明和八年銘櫛型信女墓塔
			年 銘
			明和八年（一七七二）
			型
			櫛
（右側面）		施主 亀田五左衛門	
（正面）		妙法 明和八年辛卯年 能受院妙珠日持 信女 二月二十二日去	
※頂部剥落 ※幅に対する奥行の比率 〇・五四			
			

名称	番号	5 0
文化八年銘櫛型童子墓塔		
文化八年辛未年 妙法恵山童子 六月朔日		
※幅に対する奥行の比率 ○・七九		
	型 櫛	
		

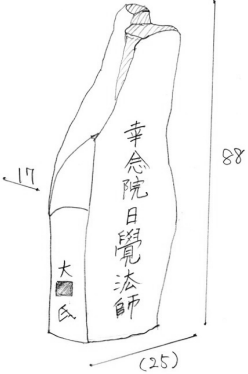
名称	番号	4 9
文化八年銘櫛型童子墓塔		
文化八未天 妙法 恵明童子 六月三日		
※幅に対する奥行の比率 ○・四四		
	型 櫛	
		

名称	番号	4 8
文化六年銘角柱型信士墓塔		
文化六巳天 妙法 教存 信士 四月廿二日		
※年銘に巳と彫ってあるが、文化六年の干支は己巳なので、己あるいは巳の誤刻		
※幅に対する奥行の比率 ○・八一		
	型 角柱錐	
		

名称	番号	4 7
文化二年銘櫛型墓塔		
(右側面) 文化二乙丑年 (正面) 妙法速成妙珠信女 (左側面) 六月七日		
※幅に対する奥行の比率 ○・五三		
	型 櫛傾斜	
		

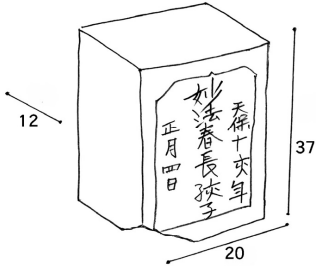
名称	番号	5 4	名称	番号	5 3	名称	番号	5 2	名称	番号	5 1
文政・天保銘櫛型連名墓碑			文化十三年銘櫛型連名墓塔			文化十三年銘櫛型信女墓碑			文化八年銘櫛型童女墓塔		
年銘	天保元年（一八三〇）		年銘	文化十三年（一八一六）		年銘	文化十三年（一八一六）		年銘	文化八年（一八一）	
型	櫛		型	櫛		型	櫛		型	櫛	
（右側面） 文政八酉三月十五日 （正面） 是真持戒信士 眞了妙戒信女 位 （左側面） 天保元寅十一月十五日 ※文政八年は一八二五年 ※幅に対する奥行の比率 ○・七三 			（右側面） 文化十三年五月廿日 （正面） 長勝院顯量信士 臈量院妙勝信女 （左側面） 文化十三年六月十一日 ※幅に対する奥行の比率 ○・六八 			文化十三年 顯壽院妙長日圓信女 七月五日 ※幅に対する奥行の比率 ○・五二 			文化八未天 妙法妙涼童女位 五月十二日 ※幅に対する奥行の比率 ○・七三 		
											

名称	番号	5 8
天保十一年銘自然石型法師墓碑		
(右側面)		天保十一年 十一月十一日寂
(正面)		幸念院日覺法師
(左側面)		大■氏
型	自然石	
年銘	天保十一年(一八四〇)	



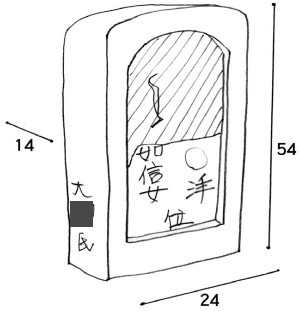
名称	番号	5 7
天保十年銘板柱型孩子墓塔		
(正面)		天保十亥年 妙法春長孩子 正月四日
型	板柱平頭	
年銘	天保十年(一八三九)	

※脚部欠損
※幅に対する奥行の比率 〇・六〇



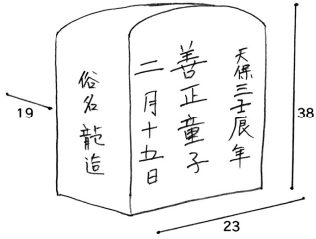
名称	番号	5 6
寛政・天保銘櫛型連名墓標		
(右側面)		寛政元酉年四月十一日 天保五年三月十一日
(正面)		「歛淨」位 「如信女」
(左側面)		大■氏
型	櫛	
年銘	天保五年(一八三四)	

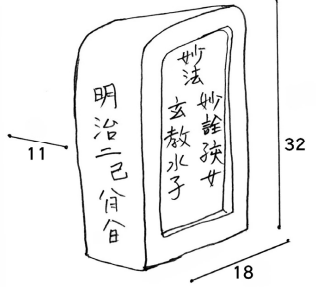
※寛政元年は一七八九年
※銘の面、上部剥落
※幅に対する奥行の比率 〇・五八

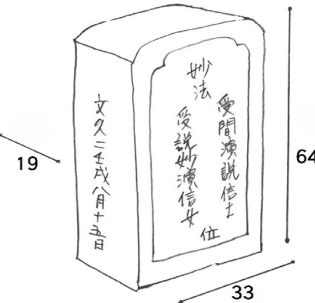


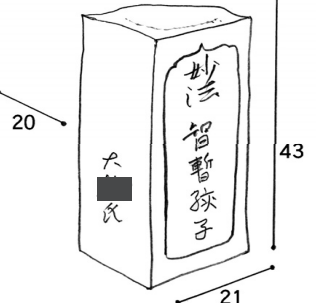
名称	番号	5 5
天保三年銘角柱型童子墓碑		
(正面)		天保三壬辰年 善正童子 二月一日
(左側面)		俗名 龍造
型	角柱面取	
年銘	天保三年(一八三二)	

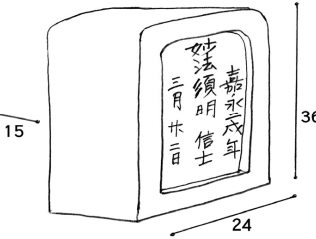
※幅に対する奥行の比率 〇・八三

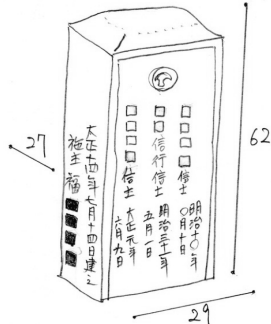


名称	番号	6 2	年 銘	型	明治五年（一八七二）
明治銘櫛型連名孩女水子墓塔				櫛傾斜	
※明治二年は一八六九年、干支は己巳とあるが己巳の誤刻とも考えられる。「					
（右側面） 明治五申正月一日					
（正面） 妙詮孩女 妙法 玄教水子					
（左側面） 明治二己巳八月八日					
※幅に対する奥行の比率 ○・六一					
					
					

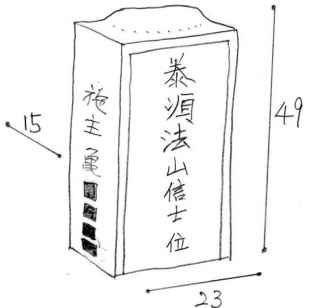
名称	番号	6 1	年 銘	型	文久二年（一八六二）
文政・文久銘櫛型連名墓塔				櫛	
※文政十三年は天保元年で一八三〇年					
（右側面） 文政十三庚寅六月十日					
（正面） 受間演説信士 位 妙法 受説妙演信女					
（左側面） 文久二壬戌八月十五日					
※幅に対する奥行の比率 ○・五八					
					
					

名称	番号	6 0	年 銘	型	文久二年（一八六二）
文久二年銘角柱型孩子墓塔				角柱隆起	
（右側面） 文久二壬戌八月十二日					
（正面） 妙法 智暫孩子					
（左側面） 大■氏					
※幅に対する奥行の比率 ○・九五					
					
					

名称	番号	5 9	年 銘	型	嘉永二年（一八四九）
嘉永二年銘櫛型信士墓塔				櫛	
※嘉永二年の干支は己酉、「戌」は同三年の干支なので酉の誤刻。					
妙法順明 信士 三月廿二日					
※幅に対する奥行の比率 ○・六三					
					
					

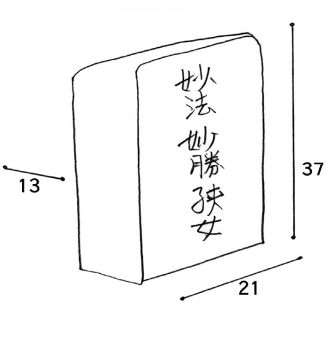
名称	年銘	型
大正十四年建立角柱型連名墓碑	大正十四年（一九二五）	角柱隆起
番号 6 5		
（正面）（家紋）□□信行信士 明治三十一年 □月一日 □□法□信士 大正元年 六月九日 ※明治三十一年は一九二八年 ※大正元年は一九一二年 （右側面） □□水子 「 □□水子 「 九月□日 秋光孩子 「 「 月□□ （左側面） 大正十四年七月十四日建之 施主 福■■■■		
※モルタル仕上げ ※幅に対する奥行の比率 ○・九三 		
		

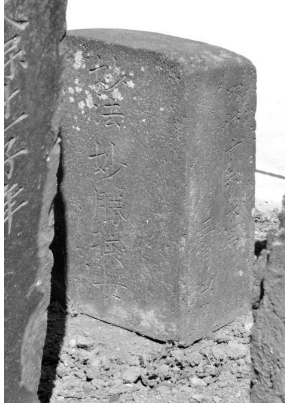
番号		6 4		名称
		（右側面）		明治二十四年銘板柱型信士墓碑
		明治廿四年八月廿三日 俗名 亀■■■■		年銘
		（正面） 泰順法山信士位		明治二十四年（一八九一）
（左側面） 施主 亀■■■■				型
				板柱隆起

※幅に対する奥行の比率 ○・六五	
	



番号		6 3		名称
（右側面） 明治十六末年 三月四日 （正面） 妙法 妙勝狭女				明治十六年銘櫛型狭女墓塔
				年銘
				明治十六年（一八八三）
				型
				櫛傾斜

※幅に対する奥行の比率 ○・六二	
---------------------	--

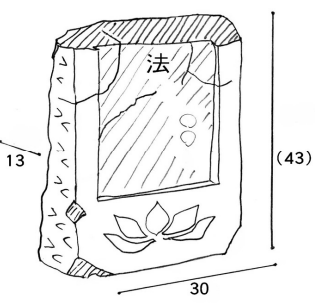


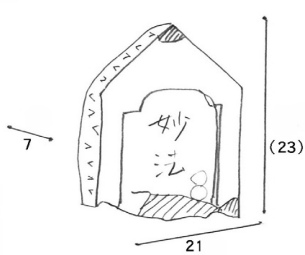
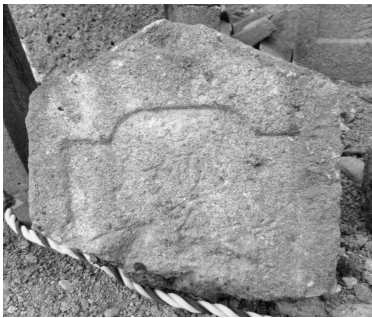
名称	番号	6 9	年銘	不明	型	板碑型と推定
昭和三十七年銘角柱型連名墓碑						
(右側面)		昭和二十九年七月十一日 俗名 用 ■ ■ 六十才 昭和三十三年五月廿日 俗名 妻 ■ ■ 六十五才				
(正面)		名體院大用日棟信士 名得院妙海日金信女 昭和三十三年七月 施主 兄弟一同 三 ■ ■ ■ ■ ■				
(左側面)						
※上半分、前面の左右、脚部欠損						

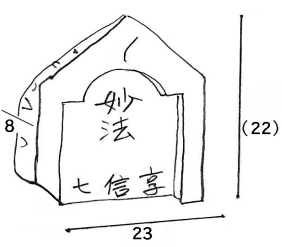
名称	番号	6 8	年銘	昭和三十七年(一九六二)	型	角柱四辺面取
昭和二十四年建立角柱型連名墓碑						
(右側面)		昭和二十九年七月十一日 俗名 用 ■ ■ 六十才 昭和三十三年五月廿日 俗名 妻 ■ ■ 六十五才				
(正面)		名體院大用日棟信士 名得院妙海日金信女 昭和三十三年七月 施主 兄弟一同 三 ■ ■ ■ ■ ■				
(左側面)						
※幅に対する奥行の比率						

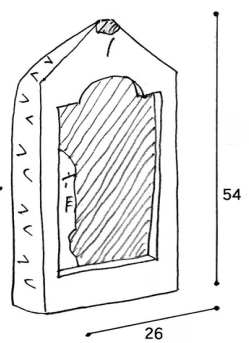
名称	番号	6 7	年銘	昭和二十四年(一九四九)	型	角柱面取
昭和二十四年建立角柱型連名墓碑						
(右側面)		昭和十八年五月十五日 還徳院義明法政信士 俗名 政 ■ ■ 七十 還歸院華園妙初信女 妻 ハ ■				
(正面)		(家紋) ■ ■ 家之墓 昭和二十四年五月建之 施主 和 ■ ■ ■ ■				
(背面)						
※幅に対する奥行の比率						

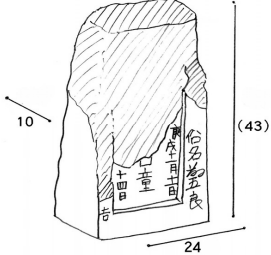
名称	番号	6 6	年銘	大正十四年(一九二五)	型	角柱隆起
大正十四年建立角柱型連名墓碑						
(右側面)		大正十四年四月九日 卒 俗名 □ 右 ■ ■ 八十七才 大正八年十一月二日 卒 俗名 う ■ ■ 八十一才				
(正面)		梵音法繁信士 香音妙浦信 □				
(左側面)		大正十四年七月十四日建之 施主 福 ■ ■ ■ ■ ■				
※モルタル仕上げ						
※幅に対する奥行の比率						

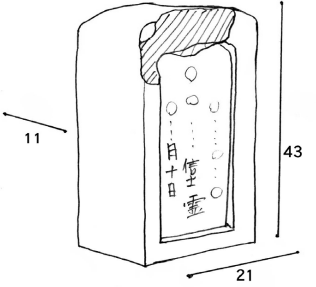
番号	7 3	名称
年銘不明型不明墓石		
年銘		
不明		
型		
板碑Ⅱ		
※頂部欠損、銘の面ほとんど剥落		
		
		

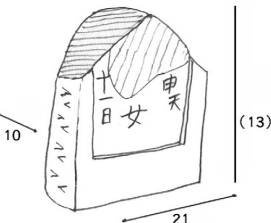
番号	7 2	名称
年銘不明板碑Ⅱ型墓塔		
年銘		
不明		
型		
板碑Ⅱ		
※下部欠損		
		
		

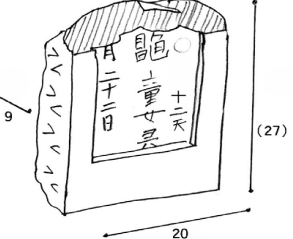
番号	7 1	名称
年銘不明板碑Ⅱ型墓塔		
年銘		
不明		
型		
板碑Ⅱ		
※下部欠損		
		
		

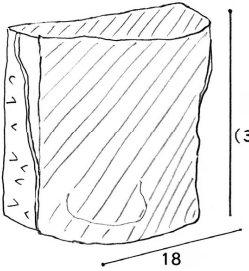
番号	7 0	名称
年銘不明板碑Ⅱ型墓標		
年銘		
不明		
型		
板碑Ⅱ		
※名の面、全面剥落。		
		
		

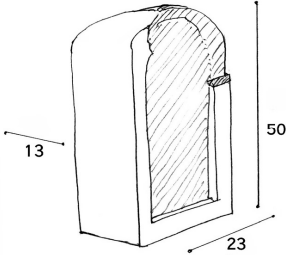
名称	年銘	不明	型	板碑Ⅱ
年銘不明櫛型連名童墓標	俗名 藤五良	不明	櫛	
番号 7 7	「 庚戌十一月十一日 童 十四日 吉			
※頂部欠損、銘の面の上部剥落 ※俗名、年銘がそれぞれ二人分あるので、戒名も二人分だったと思われる。				

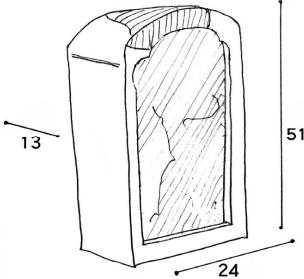
名称	年銘	不明	型	板碑Ⅱ
年銘不明櫛型墓標	「 信士 霊 月十日	不明	櫛	
番号 7 6				
※銘の彫りは浅く、かつ摩滅している ※幅に対する奥行の比率 ○・五二				

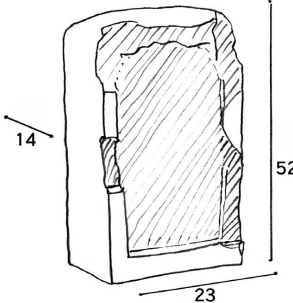
名称	年銘	不明	型	板碑Ⅱ
年銘不明型不明墓標	「 申天 女 十一月	不明	板碑Ⅱ	
番号 7 5				
※上部欠損				

名称	年銘	不明	型	板碑Ⅱ
年銘不明型不明童女墓標	「 十二天 童女 霊 月二十二日	不明	板碑Ⅱ	
番号 7 4				
※上部欠損				

番号	8 1	名称
正		年銘不明型不明墓標
※上部欠損、前面は全面剥落		年銘 不明
		型 不明

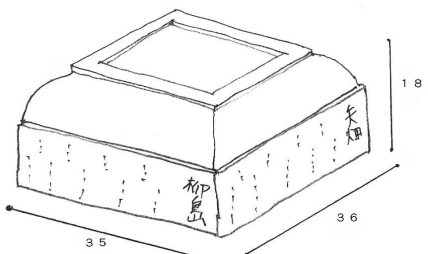
番号	8 0	名称
		年銘不明櫛型墓標
※銘の面、全面剥落 ※幅に対する奥行の比率 ○・五七		年銘 不明
		型 櫛

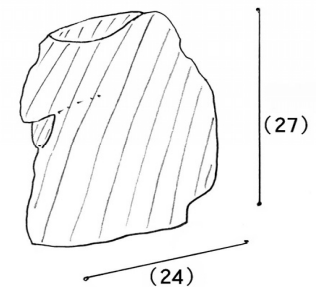
番号	7 9	名称
		年銘不明櫛型墓標
※銘の面、全面剥落 ※幅に対する奥行の比率 ○・五四		年銘 不明
		型 櫛

番号	7 8	名称
		年銘不明櫛型墓標
※前面ほとんど剥落 ※幅に対する奥行の比率 ○・六一		年銘 不明
		型 櫛

番号		名称
		石灯籠基礎 (対の二)
		年銘 なし
一面 矢畑 伊兵衛		三面 いせ原 権七
同 吉左門		日比た 宇左門
西久保 平右門		田村 庄二良
いせはら 平佐衛門		十ヶ坂 彦右門
〃 平右門		〃 与助
二面 柳島 賀兵衛		四面 町や 〇〇
新田 治右門		〇〇 甚左門
〃 与治兵衛		〇〇 兵衛
〇〇の 六左衛門		〇〇 〇〇門
香川 市兵衛		たはた 庄左門

※どこが正面だったかは分からないので、仮の一面を設定し右回りに記した。



番号		名称
8 2		年銘不明型不明墓標
		年銘 不明
		型 不明
※頂部、側面、脚部剥落。名の面全面剥落。		
		

調査対象外

番号

自然石など

石灯籠の笠など

名称 石灯笼の基礎	（対の二）	年銘 なし
一面 馬入	三面 下丁ヤ	
正源 窓	伊右門	
「」	田畑	
源衛門	甚兵衛	
「」	下ヤ	
平助	増右門	
「」	下丁ヤ	
市口衛	権八	
馬入	「	
市口衛	弥八	
□□		
吉衛門		
田村		
八良左衛門		
二面 一ノミヤ	四面 南江	
八良左衛門	助五良	
「	「	
助右門	惣兵衛	
室田	「	
惣兵衛	海安	
「	□江	
勘佐門	甚左衛門	
「	南江	
□□良	次左衛門	
四ツヤ		
善五良		

子権現の参道の手水鉢脇に立ててある竿石と一体と思われ。基礎は二基見つけたが、竿石は一基だけが残っていた。元から子権現に備えられていた灯笼のものと考えられる。

萩園 常願寺 古墓石一覧

番号	年銘	西暦	銘	縦×横×奥行	状態・記事	型
1	寛文四 []	1664	不明	(45)×(30)×13	頂部・左側面欠損、前面殆ど剥落	板碑Ⅱ
2	延宝三乙卯／四月十五日	1675	(ひげ題目) 祖母妙賢靈	(67)×30×14	頂部欠損	板碑
3	延宝三乙卯 []／七月廿六 []	1675	(ひげ題目) 妙圓靈 []	(28)×(28)×(12)	頂部・脚部・左側面欠損	板碑
4	延宝八庚申／八月廿一日	1680	妙法 童子清久靈	46×21×15	頂部一部欠損	板碑Ⅱ
5	延宝三(1675)卯五月十八日／天和二(1682)戊八月廿六日	1682	妙法／父法父靈位／母口満靈尼	62×25×15	頂部左側欠損 脚部に蓮葉	板碑
6	元禄二己巳 []／八月十日	1689	[] 清言童子靈	(10)×(23)×11	頂部・左側面欠損、二つに折れ	板碑Ⅱ
7	元禄第六癸酉／二月晦日亡	1693	(ひげ題目) 息女妙柳靈尼	74×35×21		板碑
8	元禄十丁丑年／閏二月十一日	1697	(ひげ題目) 幼知童子／靈	57×30×19	脚部に蓮葉	板碑
9	元禄十一戊寅天／五月二十七日	1698	(ひげ題目) 妙行院達心日開靈	93×42×26	脚部に蓮葉	板碑
10	元禄十四巳年／十月廿三日	1701	妙法正因童子靈	(35)×24×14	頂部・脚部欠損	板碑
11	宝永三戌年／十月廿九日	1706	妙法妙秀靈尼	63×31×12	脚部に未開敷蓮花	板碑Ⅱ
12	宝永五戊子天／七月二十一日	1708	妙法英智童女	49×23×12		板碑Ⅱ
13	宝永七庚寅天／六月二十二日	1710	妙法妙涼童子	42×21×11		板碑Ⅱ
14	正徳三癸巳天／四月七日	1713	妙法慈天法信靈位	46×24×18		板碑Ⅱ
15	正徳五乙未年／十一月二十二日	1715	妙法妙教童女靈	41×23×12		板碑Ⅱ
16	正徳五乙未年／七月二十三日	1715	妙法妙須童女靈	38×21×12	脚部に蓮葉	板碑Ⅱ
17	正徳五乙未八月二十六日 元禄三庚午四月二十日	1715 1690	妙法／宗源信士／妙頂信女／各靈	68×29×21	中央に未開敷蓮花 脚部に蓮葉	板碑
18	享保元丙申天／八月廿日	1716	妙法〃悟童女	38×24×15	脚部に蓮葉	板碑Ⅱ
19	享保三戊戌天／十月二日	1718	妙法悲母妙應靈位	44×23×13		板碑Ⅱ
20	享保五庚子季／四月上浣四日	1720	妙法慈父浄慶靈	59×30×18	脚部に蓮葉	板碑
21	享保五庚子載／七月中浣二日	1720	[] 父喜法院覺善靈	64×27×12	銘の面、上部剥離	板碑Ⅱ
22	享保十四己酉天／三月二十日	1729	妙法浄口信士靈	55×26×14	頂部剥落、二つに折れ	櫛
23	享保十八丑天／[] 月二十日	1733	[] 徳院道源	(29)×23×6	頂部欠損	板碑Ⅱ
24	享保十八癸丑年／六月中旬五日	1733	妙法玄光妙悦靈尼	35×16×10		櫛
25	(右側面) 享保十九寅天／(左側面) 五月廿七日	1734	妙法觀如妙性信女	55×24×14		櫛
26	元文二 []／[]	1737	[] 妙 []	49×23×14	上部・前面は全面剥落	櫛
27	寛延三年天／[] 十三日	1750	[] 童子	(36)×21×11	頂部欠損、半分より上剥落	板碑Ⅱ
28	寛延四辛未／八月十六日	1751	妙法 妙桂信女靈		頂部欠損	板碑Ⅱ
29	宝暦二甲申歳／十二月七日	1752	妙法 蓮乘院妙運日等尼	53×25×18	宝暦2は壬申、甲は壬の誤刻	板碑Ⅱ
30	宝暦四 []／四月十 []	1754	妙法 法善 []	53×24×14	銘の面、下部剥落	櫛
31	宝暦四甲戌九月初八日	1754	口世玉岑影珠童子	(37)×22×17	頂部欠損 中央に地藏菩薩立像	像舟形
32	宝暦六丙子天／三月 [] 二日	1756	[] 遊信女靈位	(37)×20×7	頂部欠損	板碑Ⅱ
33	(右側面) 寶暦六丙子季／(左側面) [] 一月二十日	1756	(正面) 妙法夏圓信士靈	(56)×24×15	頂部欠損	櫛
34	宝暦十二壬午天／[] 十二日	1762	[] 童子靈	- ×22×8	上部で二つに折れ	板碑Ⅱ
35	(右側面) 明和元甲申／(左側面) 十二月十六日	1764	(正面) 實相受勝妙歡靈／(左側面) 大柳氏	56×25×15		櫛
36	(右側面) 明和七庚寅／(左側面) 三月十三日	1770	(正面) 顯本院宗蓮日華 []	53×24×14	銘の面、下部剥落	櫛傾斜
37	(右側面) 明和七庚寅／(左側面) 四月八日	1770	(正面) 妙法本善院妙蓮日顯信女	53×23×12	二つに折れ	櫛
38	(右側面) 明和八(1771)卯正月廿八日／(左側面) 明和七(1770)寅十月廿八日	1771	(正面) 妙法／日性妙 []／[]	46×20×13	銘の面下部、剥落	櫛
39	(正面) 明和八辛卯年／二月二十二日去	1771	(右側面) 施主亀田五左衛門／ (正面) 妙法能受院妙珠日持信女	53×24×13		櫛
40	安永四年己未九月廿五日	1775	(題目) 悲母妙靈／口／施主一口宮村旦入口	(48)×25×12	下部欠損、銘の彫り浅い	板碑Ⅱ
41	安永六丁酉天／五月上六日	1777	妙法清光日得比丘	58×25×15		櫛傾斜
42	安永八己亥天／六月上二日	1779	妙法諦道信士	47×20×14		櫛
43	天明四甲辰年／十一月十九日	1784	妙法 [] 院妙長日壽	49×21×12	頂部などに剥落	櫛
44	寛政元己酉天／十一月十一日	1789	妙法榮存童子	(42)×20×12	頂部欠損	板碑Ⅱ
45	(右側面) 寛政十二年庚申／(左側面) 十月廿五日	1800	(正面) 圓長院顯壽日量信士 (左側面) 俗名藤兵衛	50×19×11		櫛傾斜
46	(右側面) 寛政二(1790)庚寅八月十二日／(左側面) 享和元(1801)辛酉七月十一日	1801	(正面) 法受院了念靈／了貞院妙念靈	56×25×15	中央に未開敷蓮花	櫛傾斜
47	(右側面) 文化二乙丑年／(左側面) 六月七日	1805	(正面) 妙法速成妙珠信女	40×19×10		櫛傾斜
48	文化六己巳天／四月廿二日	1809	妙法教存信士	30×16×13	文化6は己巳、巳は己か巳の誤刻	角柱錐
49	文化八未天／六月三日	1811	妙法恵明童子	37×16×7		櫛
50	文化八辛未年／六月朔日	1811	妙法恵山童子	36×14×11		櫛
51	文化八未天／五月十二日	1811	妙法妙涼童女位	36×15×11		櫛
52	文化十三子年／七月五日	1816	顯壽院妙長日圓信女	45×23×12		櫛
53	(右側面) 文化十三子五月廿日／(左側面) 文化十三子六月十一日	1816	(正面) 妙法／長勝院顯量信士／ 腕量院妙勝信女	53×22×15		櫛
54	(右側面) 文政八(1825)西三月十五日／(左側面) 天保元(1830)寅十一月十五日	1830	(正面) 是真持戒信士／眞了妙戒信女／位	66×26×19		櫛

萩園 常願寺 古墓石一覽

番号	年銘	西暦	銘	縦×横×奥行	状態・記事	型
55	天保三壬辰年／二月十五日	1832	(正面) 善正童子／(左側面) 俗名 龍造	38×23×19		角柱面取
56	(右側面) 寛政元(1789)酉年四月十一日／妙 天保五年(1834)三月十一日	1834	(正面) [] 欽浄／[] 如信女／位／(左側面) 大柳氏	54×24×14	銘の面、上部剥落	櫛
57	天保十亥年／正月四日	1839	妙法春長孩子	37×20×12		板柱平頭
58	(右側面) 天保十子年／十一月十一日寂	1840	(正面) 幸念院日覺法師／(左側面) 大■氏	88×25×17		自然石
59	嘉永二戌年／三月廿二日	1849	妙法順明信士	36×24×15	嘉永2は己酉、戌は酉の誤刻	櫛
60	(右側面) 文久二壬戌八月十二日	1862	(正面) 妙法智暫孩子／(左側面) 大■氏	43×21×20		角柱隆起
61	(右側面) 文政十三(1830)庚寅六月十日／(左側面) 文久二(1862)壬戌八月十五日	1862	(正面) 妙法／受間演説信士／受説妙演信女／位	64×33×19		櫛
62	(右側面) 明治五(1872)申正月一日／(左側面) 明治二(1869)己八月八日	1869	(正面) 妙法／妙詮孩子／玄教水子	32×18×11	明治二己の己は巳の誤刻とも考えられる	櫛傾斜
63	(右側面) 明治十六未年／三月四日	1883	(正面) 妙法妙勝孩子	37×21×13		櫛傾斜
64	(右側面) 明治廿四年八月廿三日	1891	(右側面) 俗名 亀■■■■ (正面) 泰順法山信士位 (左側面) 施主 亀■■■■■	49×23×15		板柱隆起
65	(右側面) □□水子 [] 月□日／□□水子 [] 九月□日／秋光孩子 [] 月□□／(正面) □□□信士 明治十□年／四月十日／(家紋) □□信行信士 明治三十一年／□月一日／□□法□信士 大正元年／六月九日／(左側面) 大正十四年七月十四日建之／施主 福■■■■■	1925 建立	左記	62×29×27	正面上部中央に家紋モルタル仕上げ	角柱隆起
66	(右側面) 大正十四年四月九日卒／俗名□右■■■八十七才／大正八年十一月二日卒／俗名う■■八十一才／(左側面) 大正十四年七月十四日建之／施主福■■■■■	1925 建立	(正面) (家紋) 梵音法繁信士／香音妙浦信□	70×31×28	正面上部中央に家紋モルタル仕上げ	角柱隆起
67	(右側面) 還徳院義明法政信士／昭和十八年五月一日／俗名 政■■七十／還歸院華園妙初信女 妻 ハ■■／(背面) 昭和二十四年五月建之／施主 和■■■■	1949 建立	(正面) (家紋) ■■■家之墓	58×25×24	正面上部中央に家紋	角柱面取
68	(右側面) 昭和二十九年七月十一日／俗名 用■■■六十才／昭和三十三年五月廿日／俗名 妻 き■■六十五才／(左側面) 昭和三十七年七月／施主 兄弟一同／三■■■■■	1962 建立	(正面) 名體院大用日棟信士／名得院妙海日金信女	64×26×25		角柱四辺面取
69	[] 十二月十二日／[] 五月廿七日	—	[] 信士／[] 女／各霊	(29)×29×7	中央から上部欠損	板碑と推定
70	(下部左端) [] 六月 []	—	不明	54×26×11	銘の面、全面剥落	板碑Ⅱ
71	享 [] 七 []	—	妙法 信 []	(22)×23×8	下部欠損	板碑Ⅱ
72	[] 七 []	—	妙法 []	(23)×21×7	下部欠損	板碑Ⅱ
73	[] 七 []	—	□法 []	(43)×30×13	頂部欠損、銘の面剥落、脚部に蓮華	板碑Ⅱ
74	[] 十二天／[] 月二十二日	—	[] 童女霊	(27)×20×9	上部欠損	板碑Ⅱ
75	[] 申天／[] 十一日	—	[] 女	(13)×21×10	上部欠損、剥落	板碑Ⅱ
76	[] 七 [] 月十日	—	[] 信士霊	43×21×11	摩滅して読めない、上部剥落	櫛
77	[] 庚戌十一月十一日／[] 十四日	—	俗名藤五良／[] 吉	(43)×24×10	頂部欠損、上部剥落	櫛
78	不明	—	不明	52×23×14	銘の面全面剥落	櫛
79	不明	—	不明	51×24×13	銘の面、全面剥落	櫛
80	不明	—	不明	50×23×13	銘の面、全面剥落	櫛
81	不明	—	不明	(31)×18× -	頂部欠損・全面剥落	不明
82	不明	—	不明	(27)×(24)× -	頂部左右欠損、全面剥落	不明